

ふくおかの経済

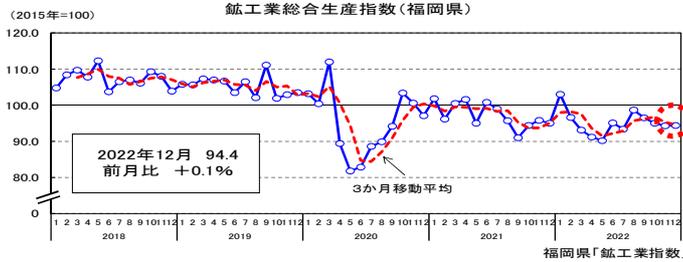
令和5年2月号



生産

持ち直しの動きに足踏みがみられる。

12月の生産指数は、汎用・生産用機械工業などの上昇により4か月ぶりに前月を上回りましたが、3か月移動平均では前月を下回りました。

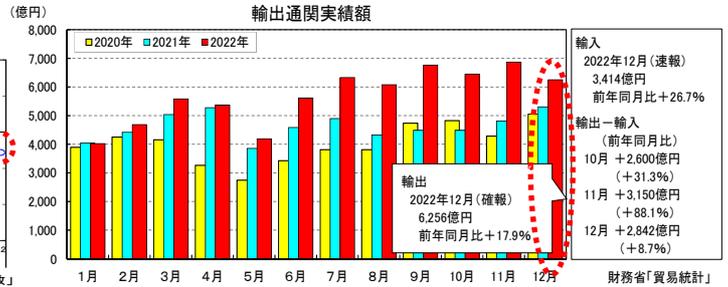


鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

貿易

輸出額、輸入額ともに、前年同月を上回っている。

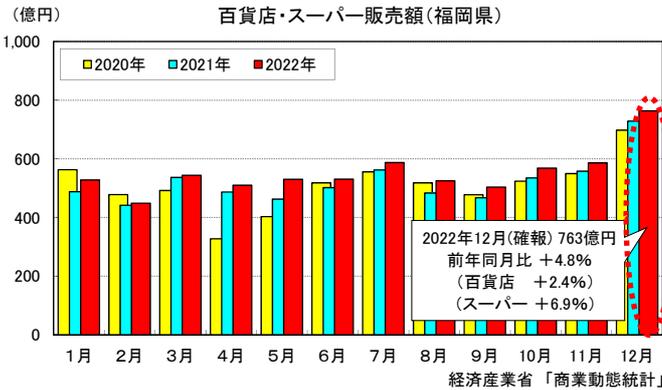
12月の輸出額は、前年同月比+17.9%、輸入額は同+26.7%といずれも前年同月を上回りました。



消費

持ち直している。

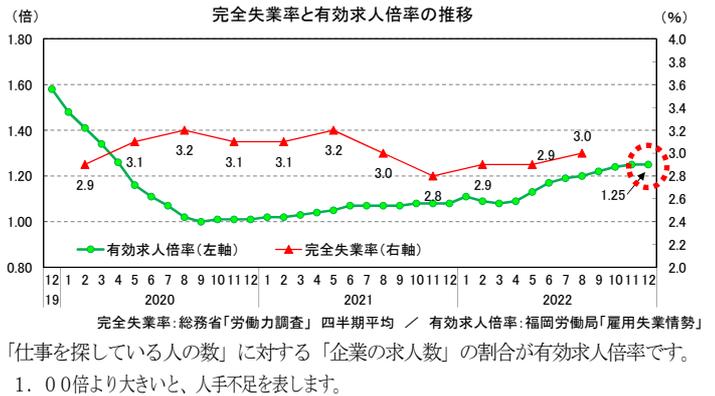
12月の百貨店・スーパー販売額は、15か月連続で前年同月を上回りました。



雇用

雇用情勢は、改善しているものの、一部に厳しさがみられる。

12月の有効求人倍率は1.25倍で、前月と同倍となりました。



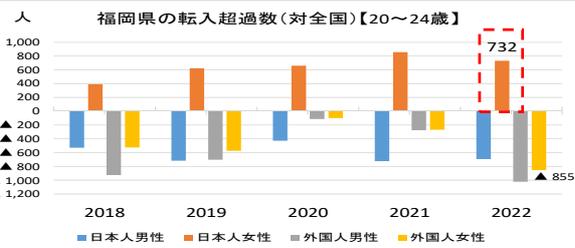
今月のトピック 転入超過が続く20代前半の日本人女性

○本県の20代前半女性は、2022年に前年の転入超過から転出超過に転じましたが、日本人でみると転入超過を維持しています(図表1)。

○地域別の移動状況では、東京圏(▲1,928人)や大阪圏(▲223人)に流出していますが、九州・沖縄(2,373人)や山口県(334人)からの流入により転入超過となっています。対東京圏では、コロナ禍の2021年は転出超過幅が縮小しましたが、昨年はコロナ禍前の水準に戻っています。対大阪圏では、転出超過幅が縮小傾向と改善しています。九州・沖縄からの転入超過数は縮小しています(図表2)。

○九州各県の転出超過に占める本県の割合を算出すると、佐賀県や長崎県は5割、熊本県や大分県は4割程度となっており、近隣県でも割合に違いがみられます。また割合としては低いですが、沖縄県からはコロナ禍の中、割合、人数ともに右肩上がりに伸びています(図表3)。

図表1



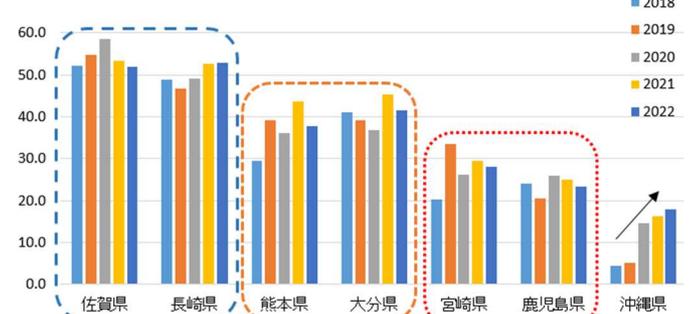
図表2

福岡県の転入超過数の推移【20~24歳、日本人女性】

	2018	2019	2020	2021	2022
総数(全国)	392	623	659	856	732
東京圏 (東京、神奈川、千葉、埼玉)	▲2,084	▲2,095	▲1,926	▲1,731	▲1,928
大阪圏 (大阪、兵庫、京都、奈良)	▲416	▲475	▲346	▲266	▲223
山口県	358	408	418	385	334
九州・沖縄	2,554	2,723	2,460	2,370	2,373

図表3

各県の転出超過数に占める福岡県の割合【20~24歳、日本人女性】



図表1, 2, 3出所: 総務省「住民基本台帳人口移動報告」に基づき作成